

各地で学習会開催、リニアへの関心を高める活動

川崎・麻生区でリニア・シンポ、130人参加、JR東海や市当局・議会に説明会開催を要請

10月7日、川崎市麻生区の麻生市民館大会議室で、リニア新幹線を考える麻生の会主催、同宮前の会と東京・神奈川連絡会共催で、シンポ「リニア新幹線は必要か？」が行われ住民ら130人が参加した。NPO法人・市民科学研究室の上田昌文代表が講演し、リニア計画が自然環境や市民生活に重大な影響を与えることを具体的に説明した。シンポの様子はiVJによりweb中継された。(詳細はリニア新幹線NEWSあさお参照を)。シンポ終了後の19日には、シンポで採択された要請書を持って、JR東海東京環境保全事務所や川崎市まちづくり局、川崎市議会各派を回り、住民説明会の開催を求める申し入れを行った。

「原発再稼働してまで、リニア新幹線は必要なの？」～新横浜でリニア・フォーラム開催

10月13日午後、新横浜のオルタナティブ生活館で、緑の政治フォーラム・かながわ主催で標記の集会が行われ、天野共同代表がパネラーとして意見を述べた。天野代表は「県や市が県民・市民の味方にならず、期成同盟会をつくって、問題が多いリニア計画の旗振り役になり、血税を使っているのは許せない。期成同盟会を解散して、県民・市民の側に立つよう求めて行く」と、公金流用の資料を示しながら、県や市の姿勢転換を求めた。

神奈川県リニア推進部局とのリニア懇談会で「県内8か所で説明会開催」の申し入れ

10月17日、リニア新幹線相模原連絡会が申し入れていた、県土整備局・交通企画課との「リニア懇談会」が県庁で行われ、両連絡会から13名が参加し、県からはリニア中央新幹線グルー

プの塚本周一郎チームリーダーら3人が出席した。相模原連絡会の中野渡事務局長は具体的なデータを挙げ、県がリニア推進の前提にしているデータは机上の計算による期待値だと追求。天野共同代表は、県として独自に沿線8か所で説明会を開くことと期成同盟会の解散を求めた。

この席で、東京・神奈川連絡会は県独自の説明会の早急な開催を求める申し入れ書を提出した。

「東京・町田市の地下にもリニアが通る」
計画の矛盾を考える学習会

10月21日午後、東京・町田市のことばランドで、連絡会実行委員会主催でシンポ「町田の地下にもリニアが通る！リニア新幹線、その計画と矛盾点」が開かれ、市民ら30人が参加した。JR東海労の小林光昭書記長が「社員だからこの計画の経営上の危うさが心配である」と、反対理由を説明、安全対策の不備やリニア建設によって東海道新幹線の改修や防災対策が大幅に遅れると指摘した。ガウスネット代表で連絡会共同代表の懸樋哲夫氏は「JR東海は電磁波の実測値を明らかにしていない。その基準も甘すぎる」と述べ、消費電力もJR東海が言うより大きい。原発再稼働をあてにしている」と批判した。町田市は地下をリニアが走るが、環境調査や計画の説明はこの1年行われていない。参加者から不安の声が出された。

広く会員登録を呼びかけよう！

リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会では、規約をつくり、現在の会員の再登録と、新会員の登録・加入を求めています。年会費は1000円です。リニア新幹線問題への理解を広め、一緒に活動できる新会員の募集を進めましょう。

ここが問題、リニア新幹線～NEWS No. 2
発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
発行責任者：天野捷一 044-866-5785
懸樋哲夫 042-565-7478